

4. 演奏を録音／再生する (パフォーマンスメモリー)

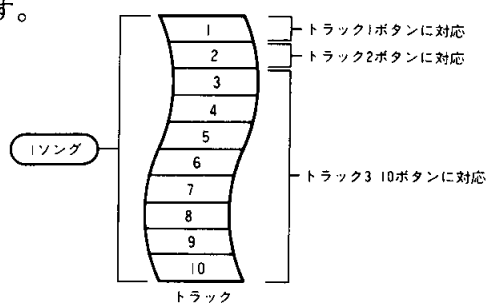
録音用のフロッピーディスクを使用することにより、自分の演奏を録音できます。録音できるのはリズムをスタートさせてから停止させるまでの間です。

"1"、"2"、"3-10"に分かれて10トラックありますが、再生時には"3-10"トラックは同時に再生されます。1曲をいくつかの演奏パートに分けて、トラック1にはギター音のパートを、2にはベースのパートを……、というように多重録音していくことができます。つまり、10トラック全てを使って1曲を仕上げるのが可能です。

ソングとは？

"1"、"2"、"3-10"の合計10トラックに録音した内容をひとまとめでして"ソング"と呼びます。

フロッピーディスクには、"ソング"単位で録音していきます。最大で60ソングまで録音できますが、1曲の演奏時間が長い場合や、1曲の中でたくさんの機能を使った場合などは60曲より少なくなってしまう場合があります。



●フロッピーディスクについて

パフォーマンスメモリー機能で演奏情報を録音するには、パソコンなどで使われているフロッピーディスクを使用します。

付属のディスクの内、1枚はまだ演奏情報が何も入っていない生ディスクです。この生ディスクに自分の演奏を録音していきます。また、市販のフロッピーディスクを使えば、自分の演奏の録音をどんどん増やしていけます。これに対して、もう1枚のすでに録音済みのディスクを自動演奏させるのがディスクオーケストラです。

大切な演奏の録音をこわしてしまったり、誤って消してしまわないために、次のことを守って正しく取り扱ってください。

◆CVP-55で使用するディスク

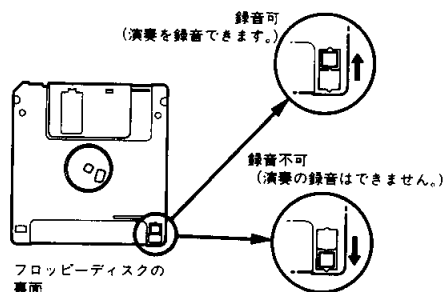
3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスクを使用してください。

◆フロッピーディスクの取り扱い

- ・テレビやスピーカーなど、磁気の強い物に近づけないでください。
- ・物をのせたり、折り曲げたりしないでください。
- ・直射日光の当たる場所や、高温または低温の場所に置かないでください。
- ・濡らしたり、湿ったところに置かないでください。
- ・内部のディスク表面に手を触れないでください。
- ・使用後はケースに入れて保管してください。

◆録音した演奏の保護について

フロッピーディスクには、再録音できないようにするツメがあります。大切な演奏はこのツメを録音不可の状態にしておきます。そうすることにより、再生はできますが誤って再録音できないようになります。



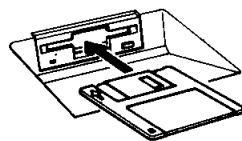
◆絶対にしてはいけないこと

ディスク挿入口の左下にあるユーズランプが点灯している時は、絶対に電源を切ったり、ディスクを取り出さないでください。CVP-55の故障の原因となるばかりでなく、ディスクに録音されている演奏情報をこわしてしまいます。

※ユーズランプが点灯している最中は、CVP-55とフロッピーディスクの間でデータがやりとりされています。

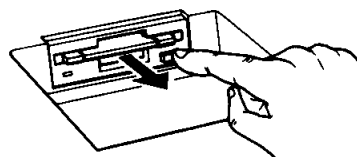
◆フロッピーディスクの入れかた

ディスク挿入口へ、ディスクの表面を上にして、ていねいに差し込んでください。



◆フロッピーディスクの取り出しかた

ユーズランプが消えていることを確認した上で、ディスク取り出しボタンを押します。



【こんなこともできる！】

・ディスクオーケストラコレクションのディスクに録音されているオーケストラの演奏を、生ディスクにコピーすることも可能です。ただし、主旋律のパートについてはコピーできません。(後で主旋律を自分で演奏し、加えることができます。)

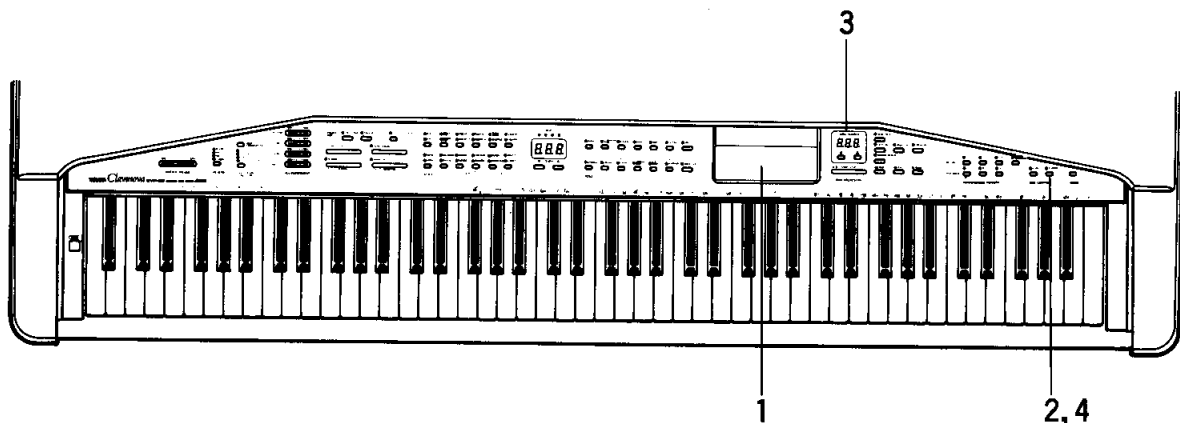
●録音する前に

●フォーマット(初期化)する

付属または市販の生のフロッピーディスクはそのままでは使えません。

フォーマット(初期化)と言って、データの整理棚を作る操作をして、初めて演奏を録音できるようにします。

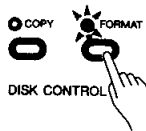
ただし、すでに使用中で演奏情報の入っているフロッピーディスクをフォーマットしてしまわないよう、十分注意してください。(フォーマットを実行すると、フロッピーディスクの内容は全て消えてしまいます。)



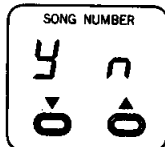
1 フロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

★まだフォーマットされていないディスクを差し込むと、ソングナンバー表示器に"For"が表示されます。

2 フォーマットボタンを押します。



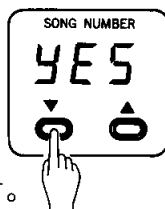
ランプが点滅を始め、ソングナンバー表示器に Y: YES、n: NOが表示されます。



中止したい時はスタート/ストップボタンを押します。

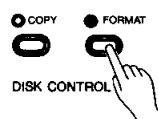
3 ソングナンバーボタンの▼を押します。

中止したい時は▲を押します。するとnoと表示されますので、フォーマットボタンをもう一度押してください。ランプが消灯し、フォーマットモードが解除されます。

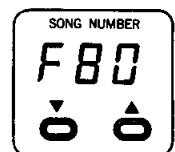


4 もう一度フォーマットボタンを押して、フォーマットを実行します。

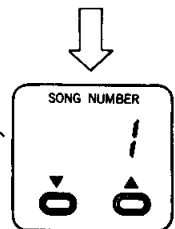
しばらく時間がかかりますが、"F80"の表示が曲番号表示に戻るまでお待ちください。



ランプが点灯に変わり、ソングナンバー表示器はカウント表示になり、数値が1ずつ小さくなっていきます。



フォーマットが終了すると、ランプが消灯し、ソングナンバー表示器は曲番号1に戻ります。



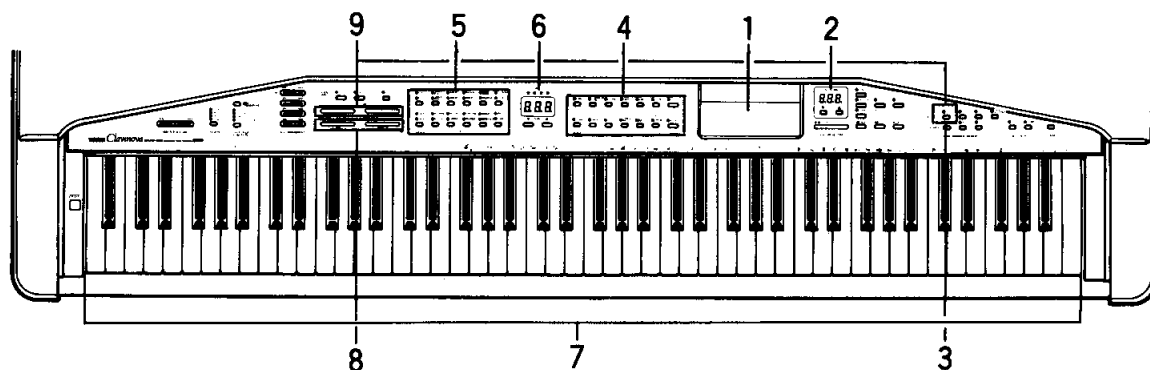
【注意!】

・ディスクオーケストラコレクションのディスクやピアノプレーヤ用のディスクを差し込んでも、フォーマットできません。

●演奏を録音する①

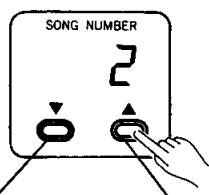
フロッピーディスクのフォーマットが終わったら、自分の演奏を録音してみましょう。

●1トラックに録音する



1 フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

2 ソングナンバーボタンで曲番号を指定します。
ソングナンバー表示器を見ながら曲番号を指定します。

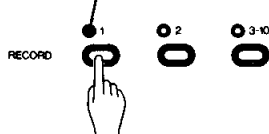


▼ボタンを押すごとに、数字が1つずつ小さくなります。 ▲ボタンを押すごとに、数字が1つずつ大きくなります。

3 1トラックを指定する

1トラックのレコードボタンを押します。すると、4分音符のタイミングでカウント音が鳴り始めます。この状態で録音待機状態です。

1トラックのランプを点灯させる。



4 音色を指定する

5 リズムスタイルを指定する

録音する曲に合ったリズムスタイルを選んでください。

6 速さ(テンポ)を調節する

カウント音を聴きながら調節できます。



7 演奏の開始

鍵盤を押すと、演奏を開始した時点から録音が始まります。リズムを先にスタートさせたい場合は、スタート/ストップボタンを押してください。

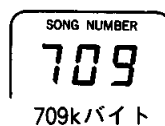
8 必要に応じて……

演奏の途中でフィルイン、バリエーションパターンを入れたりすると効果的です。これらの操作も実際に録音されます。

[補足]

- ・マスターボリューム調整による全体の音量については、記憶されません。演奏しやすい音量にすればOKです。
- ・レコードボタンを離すと、そのディスクの記憶残容量がkバイト表示されます。

・メモリー容量は、バイト数にして約709kバイトです。レコードボタンを押した時、残りバイト数が709kバイトから表示され、残容量なしでディスクフルの表示になります。



～



9 演奏の終了

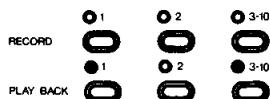
スタート/ストップボタン、イントロ/エンディングボタン、レコードボタンのいずれかを押して演奏を終了します。

録音が終了すると、レコード1トラックのランプが消灯します。

(ディスクにデータが書き込まれている間は点灯しています。)

トラック1および3-10のプレイバックボタンのランプが点灯して再生待機状態になります。

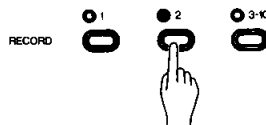
★3-10トラックへはリズムパートが記録されます。



●2トラックに録音する

2トラックのレコードボタンを押します。すると、4分音符のタイミングでカウント音が鳴り始めます。この状態で録音待機状態です。

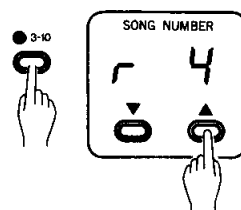
2トラックのランプを点灯させる。



●3～10トラックに録音する

- ①レコード3-10ボタンを押しながら、
- ②ソングナンバーボタンで録音したいトラック番号を指定してください。

ランプが点灯し、ソングナンバー表示器はトラック番号表示になります。3-10レコードボタンを押しながらソングナンバーボタンでトラック番号を指定します。



レコード3-10ボタンを離すと4分音符のタイミングでカウント音が鳴り始めます。この状態で録音待機状態です。

【注意！】

- ・ピアノABC機能を使って録音する場合は、1トラックを指定してください。すると、1トラック以外に3-10トラックも自動的に録音待機状態になります。1トラックには右手の演奏が、3-10トラックには伴奏が録音されます。
- ・ソロスタイルプレイ機能を使って録音する場合は、1トラックを指定してください。すると、1トラック以外に2トラック、3-10トラックも自動的に録音待機状態になります。1トラックには右手の演奏が、2トラックには装飾音が、3-10トラックには伴奏が録音されます。
- ・ピアノABC機能やソロスタイルプレイ機能は、レコードボタンを押した時点で解除されます。これらの機能を使って録音する場合には、レコードボタンを押してから指定するようにしてください。
- ・トラックごとに別のリズムスタイルで録音することはできません。10トラックで1リズムスタイル固定です。
- ・演奏した内容は、録音を終了した時点で自動的にフロッピーディスクに保存されます。誤って、ディスクを入れずに録音してしまった場合、その内容は次の操作をした時点で消えてしまいます。

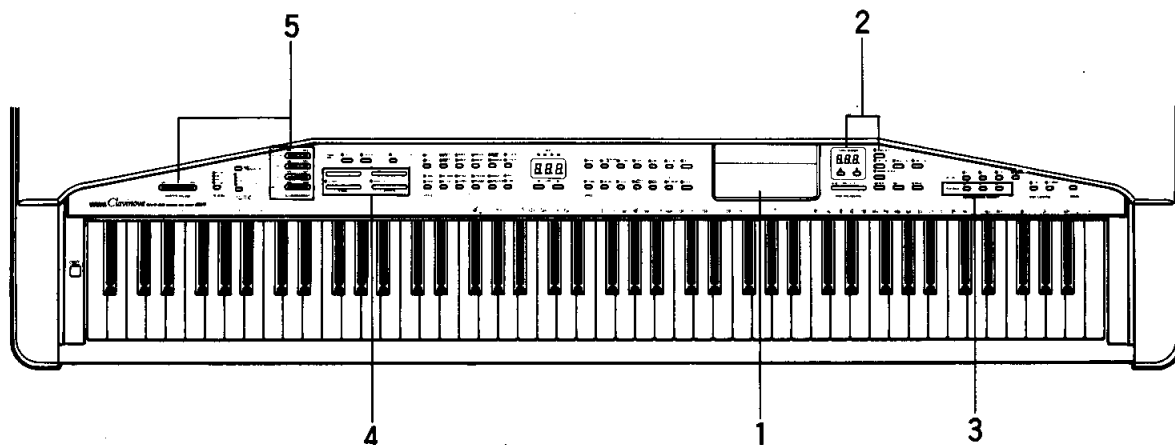
- ・パワースイッチをオフにした時。
- ・ディスクを入れてソングセレクトボタンを押した時。
- ・保存したい場合は、フロッピーディスクへコピーの操作を行ってください。(46ページの3の操作から行ってください。)
- ・録音の途中でピアノABC機能をオン/オフすることはできません。
- ・録音の途中でソロスタイルプレイ機能をオン/オフすることはできません。ただし、レフトペダルファンクションの設定がソロスタイルプレイの場合は、レフトペダルで行えます。

【こんなこともできる！】

- ・MIDI/トランスポートボタンを押しながらマーチボタンを押すと、各ボリュームの機能が次のように変わります。必要に応じて録音時のコントロールに使用してください。
- ・リズムボリューム ……モジュレーション
- ・コード1ボリューム ……ピッチベンドアップ
- ・コード2ボリューム ……ピッチベンドダウン
- ・ベースボリューム ……エクスプレッション

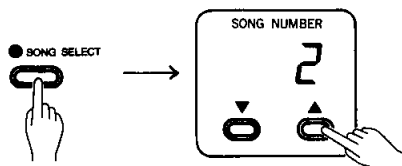
●演奏を再生させる

録音した自分の演奏を再生してみましょう。



1 再生するフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

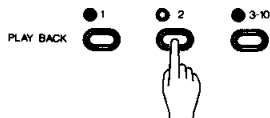
2 ソングセレクトボタンを押した上で、ソングナンバーボタンで再生したい曲の番号を指定します。
指定した曲のトラックが録音済みであれば、そのトラックのプレイバックボタンのランプが点灯します。



★ソングナンバー表示器にALLを表示させると、全曲の繰り返しになります。

3 トラックの選択

再生させたくないトラックがある場合は、そのトラックのプレイバックボタンを押してランプを消灯させます。



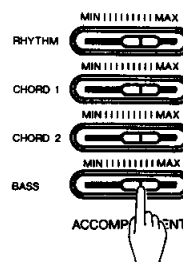
★3-10のトラックの再生を、個別にオン/オフすることはできません。

4 再生の開始

スタート方法を指定し、再生をスタートさせます。
(23ページ参照)

5 音量の調節

各音量を調節できます。



6 必要に応じて……

再生音に合わせて、音色を指定し他のパートを演奏することも可能です。

7 再生の終了

最後まで再生されると自動的に停止しますが、途中でスタート/ストップボタンやイントロ/エンディングボタンを押して終了させることも可能です。

★再生終了後は再生待機状態になります。再生待機状態を解除する時は、プレイボタンを再度押してランプを消灯させてください。

【こんなこともできる！】

- ・テンポやリズムスタイルを変えて再生させたり、フィルインを入れることも可能です。
- ・曲中の2点間(A点とB点)を指定して、リピート練習することも可能です。
(35ページ参照)

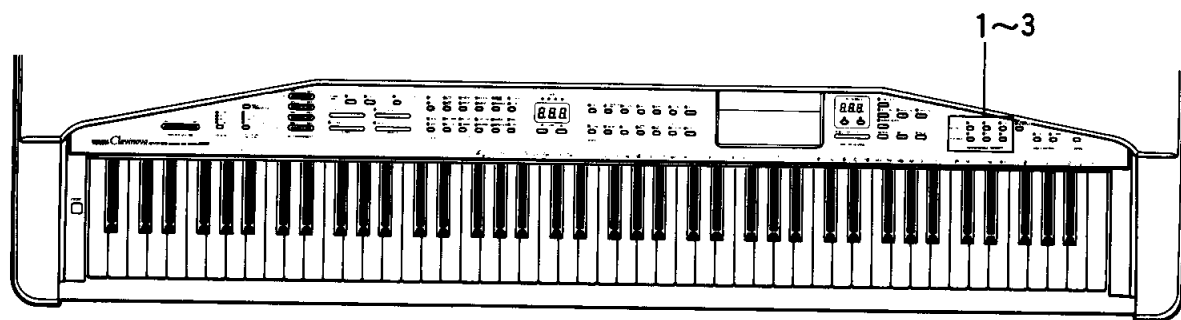
●記録内容について

記録内容は次のとおりです。なお、録音中に設定を変えた場合、実際にそのタイミングで記録されます。

- ・鍵盤情報
- ・音色選択(スプリットの場合は低音部の音色、デュアル時は2音色選択も含む)
- ・リズムスタイル選択、テンポ
- ・イントロ、フィルイン、バリエーション、エンディング
- ・ピアノABCのオン/オフ(録音開始前のみ)
- ・シングルフィンガー/フィンガードの選択(録音開始前のみ)
- ・ソロスタイルプレイのオン/オフ(録音開始前のみ)
- ・スプリットポジション(録音開始前のみ)
- ・デュアルまたはスプリットのオン/オフ
- ・ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- ・リズムボリューム(ピアノABCまたはソロスタイルプレイの場合、コード1、2ボリュームとベースボリュームも含む)
- ・リバーブスイッチの効果選択
- ・モジュレーション
- ・ピッチベンド
- ・エクスプレッション

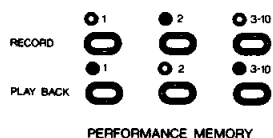
●多重録音について

多重録音は、もともとレコード制作の世界から生まれたテクニックです。まず最初にリズムスタイルを決めてトラック1に“基本にするパート”を録音。次にそれを再生しそれに合わせてトラック2に別のパートを録音。さらにトラック3-10にも……。これで完了です。最後に全てを一斉に再生できますから、あたかも大勢で一度に演奏しているように聞こえます。

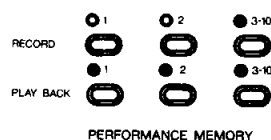


1 1トラックに右手パートを録音。

2 1トラックを再生させながら、2トラックに左手パートを録音。



3 1、2トラックを再生させながら、3-10トラックにオーケストラパートを録音していきます。



[アドバイス!]

- ・録音済みの曲番号に再録音する場合は、デリートの操作をして、その曲番号の内容を消去してから録音してください。(48ページ参照)

[注意!]

- ・録音済みのトラックに再録音すると、録音をスタートさせた時点で、そのトラックの前の内容が消えます。
- ・ピアノABC機能を使って再録音すると、録音をスタートさせた時点で、1トラックおよび3-10、の前の内容が消えます。
- ・ソロスタイルプレイ機能を使って再録音すると、録音をスタートさせた時点で、全てのトラックの前の内容が消えます。

[こんなこともできる!]

- ・演奏を間違えて録音してしまった場合は、以下のどちらかの方法で小節を進め、間違ったところから最後まで録音しなおすことで修正できます。
- ①録音しなおしたいトラックのレコードボタンを押して録音待機状態にし、
▶送りボタンで小節を進めます。

- ②録音しなおしたいトラックのレコードボタンを押して録音待機状態にし、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら音色ボタンの1-0ボタンで希望する小節にする(必ず3桁で、5小節の場合は005とする)

- ①の場合は、スタート/ストップボタンで再録音を開始し、②の場合は3桁入力と同時に再録音を開始します。

スタート後、鍵盤を押した時点よりの演奏が修正され、鍵盤を押す以前の演奏はそのまま残ります。

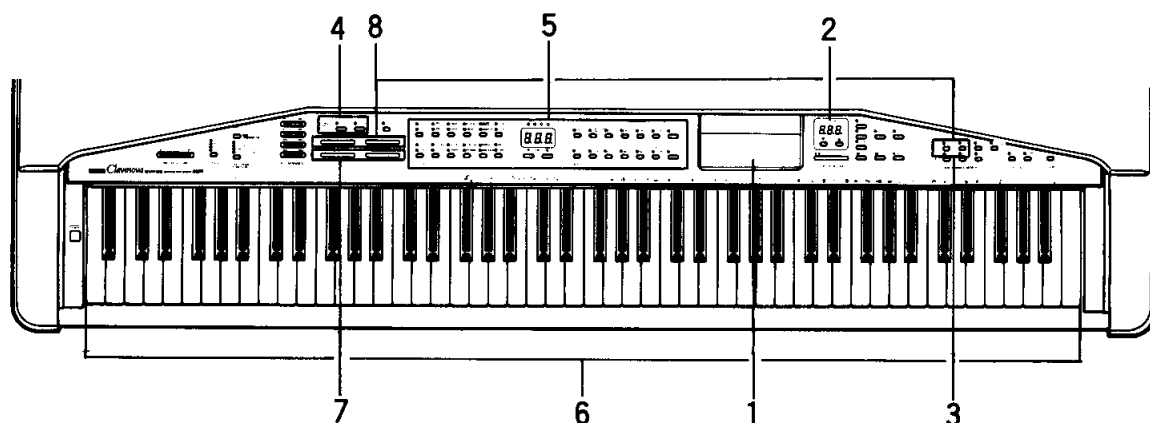
ただし、ディスクオーケストラコレクションよりコピーして録音したソングやソロスタイルプレイで録音したソングの1トラックではこの操作による修正はできません。

- ・以下の内容の初期設定は全トラック共通です。初期設定を変えたい場合は、該当するトラックのレコードボタンを押してからそれぞれの設定を変えてください。設定が終わったら、もう一度そのレコードボタンを押してランプを消灯させます。

- ・テンポ
- ・リバーブボタンの効果選択
- ・各トラックの初期音色
- ・各トラックの初期音量
- ・ピアノABC機能を使って録音済みの曲に、ソロスタイルプレイ機能をオンにして多重録音することも可能です。この場合は1トラックを録音状態、3トラックをプレイ状態、ソロスタイルプレイをオン状態にしてください。

●ピアノABC録音をする

ピアノABCの状態です録音できます。



1 フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

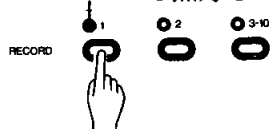
2 ソングナンバーボタンで曲番号を指定します。

〔注意！〕

・未録音の曲番号を指定してください。

3 1トラックを録音状態にします。

1トラックのランプを点灯させる。



4 ピアノABCの状態にします。



レコードの3-10トラックのランプが点灯します。

5 音色、リズムスタイル、テンポを指定します。

6 演奏の開始

鍵盤を押すと、演奏を開始した時点から録音が始まります。リズムを先にスタートさせたい場合は、スタート/ストップボタンを押してください。

7 必要に応じて……

演奏の途中でフィルイン、バリエーションパターンを入れたりすると効果的です。これらの操作も実際に録音されます。

8 演奏の終了

スタート/ストップボタン、イントロ/エンディングボタン、レコードボタンのいずれかを押して演奏を終了します。

録音が終了すると、1と3-10トラックのレコードボタンのランプが消灯します。

(ディスクにデータが書き込まれている間は点灯しています。)

〔補足〕

・右手パートが1トラックに、伴奏が3-10トラックに録音されます。

〔こんなこともできる！〕

・録音した内容を再生させながら、左手パートを2トラックに録音することもできます。

〔注意！〕

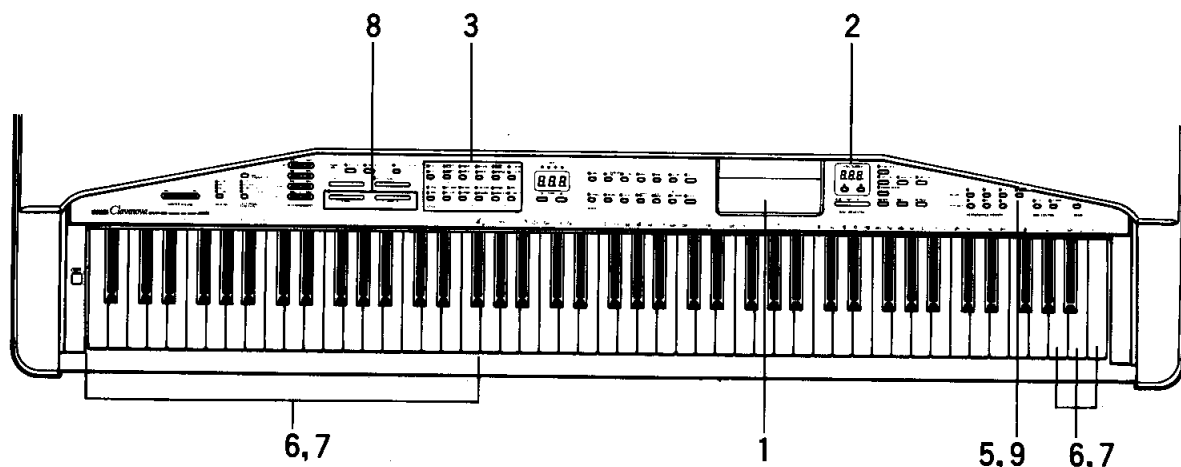
・ピアノABCを使った曲を再生中にリズムスタイルを変更しても、ピアノABCのパターンは変わりません。

●演奏を録音する②（コードシーケンス）

●コードシーケンスについて

ピアノABCまたはソロスタイルプレイ機能を使い伴奏を録音しようとしても、コードを素早く押さえられないという方のために設けられた機能です。リズムに合わせて弾かなくても、楽譜のコード進行を見ながらゆっくりと伴奏を録音できます。録音方法は、コードを確実に押さえた時点で入力、また次のコードを押さえて入力、という具合です。通常のピアノABCで録音した時と同じようにリズム、コード、ベースによる伴奏を以下の方法で録音できます。

●コードを録音する



1 フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

2 ソングナンバーボタンで曲番号を指定します。

[注意!]

・未録音の曲番号を指定してください。

3 リズムスタイルを指定します。

4 必要に応じて……

- ・スプリットポジションを指定します。
- ・各音量を指定します。
- ・後で再生する時のために、曲のテンポを指定します。

5 コードシーケンスボタンを押します。

コードシーケンスボタンのランプを点灯させる。



★伴奏はピアノABCの場合と同様にトラック3～9を使って録音されます。このため、すでに録音済みの内容を消して録音する場合はソングナンバーボタンの▼を、録音を解除する場合は▲を押してください。

★コードシーケンスボタンを押すと、フィンガーのランプも点灯します。もしシングルフィンガーの押さえ方でコード指定する場合は、この時点でシングルフィンガーの状態に変更してください。

[アドバイス!]

・録音を終えたら、確認のため必ず再生してみましょう。

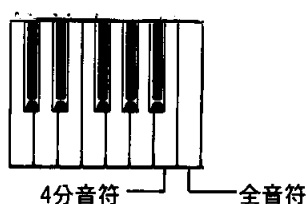
6 コードの入力開始

左手で最初のコードを押さえた後、押さえたまま右手で♪(4分音符)または○(全音符)の鍵盤を押します。これにより1つめのコードが入力されます。

★入力時、押鍵音はパネル上で選択されているリズムスタイルのコード音、ベース音はそのリズムスタイルのベース音色で発音されます。

[例：2分音符の長さのコードを入力する場合は？]

左手でコードを押さえたまま、右手で♪(4分音符)の鍵盤を2回押します。つまり、4分音符+4分音符=2分音符という要領です。



7 続けてコード入力

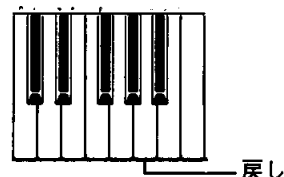
操作6の要領で2番目以降のコードを入力していきます。

★テンポ表示器の3桁で小節数が表示され、ビートランプで拍数が表示されます。

[間違えてコード入力してしまったら？]

(戻し)の鍵盤を押すごとに1拍前に戻ります。

戻して、正しい音符を入力してください。



8 必要に応じて……

演奏の途中でリズムスタイルやテンポを変更したり、フィルイン、バリエーションパターンを入れることができます。楽譜上で入れる位置を確認しながら忘れずに入力していきましょう。

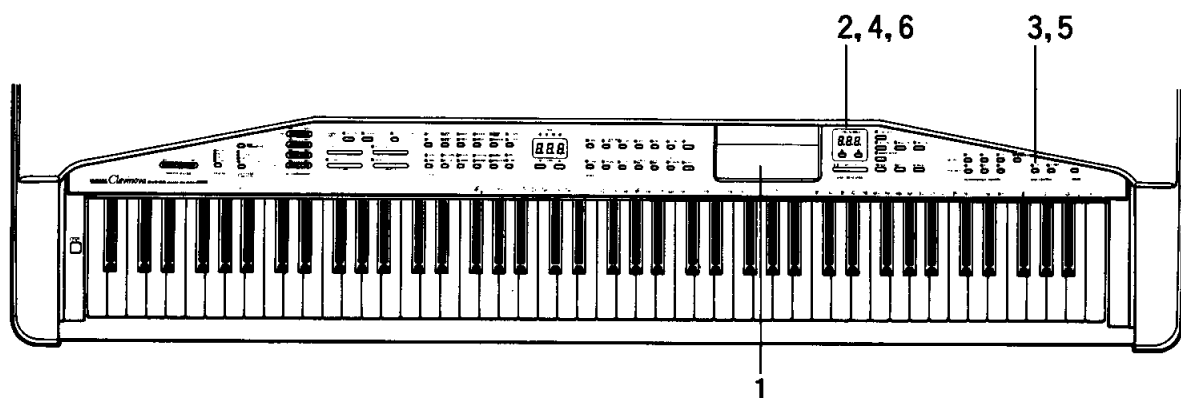
9 録音の終了

コードシーケンスボタンを再度押して録音を終了します。

●ディスクの編集

曲作りの時や、曲のバックアップをとっておきたい時に、曲番号単位でコピーすることができます。同じディスク内での別の曲番号へのコピー、別のフロッピーディスクへのコピーのどちらでも可能です。

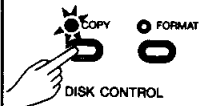
●ディスクコピー①(同じディスク内でのコピー)



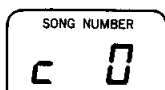
1 コピーするフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

2 ソングナンバーボタンでコピー元の曲番号を指定します。

3 コピーボタンを押します。



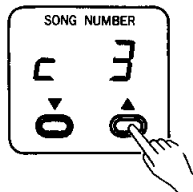
コピーボタンを押すと、ランプが点滅を始め、ソングナンバー表示器は、c 0の表示になります。



4 ソングナンバーボタンで、コピー先の曲番号を指定します。

ただし、c60以下の曲番号を指定してください。それ以上の曲番号は別ディスクへのコピー向け番号です。

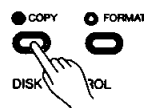
たとえば、3番にコピーしたいのならc 3を表示させます。



★この時点であれば、スタート/ストップボタンを押すことによりコピーを解除できます。

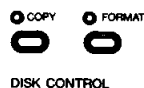
5 もう一度コピーボタンを押します。

しばらく時間がかかります。

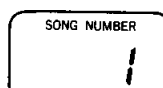


コピーボタンを押すと、ランプが点灯に変わります。

6 コピーが終了すると……

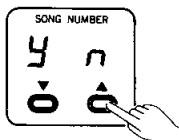


ランプが消灯し、ソングナンバー表示器は通常の曲番号表示に戻ります。



【補足】

- ・ソングナンバー表示の時のcは、コピーの頭文字のcを意味します。
- ・操作5の後、次のような表示が出る時は、コピー先の曲番号にすでに録音済です。コピー元の曲の内容に書き替えてもいい場合のみ、▼ボタンを押してください。コピーが開始されます。

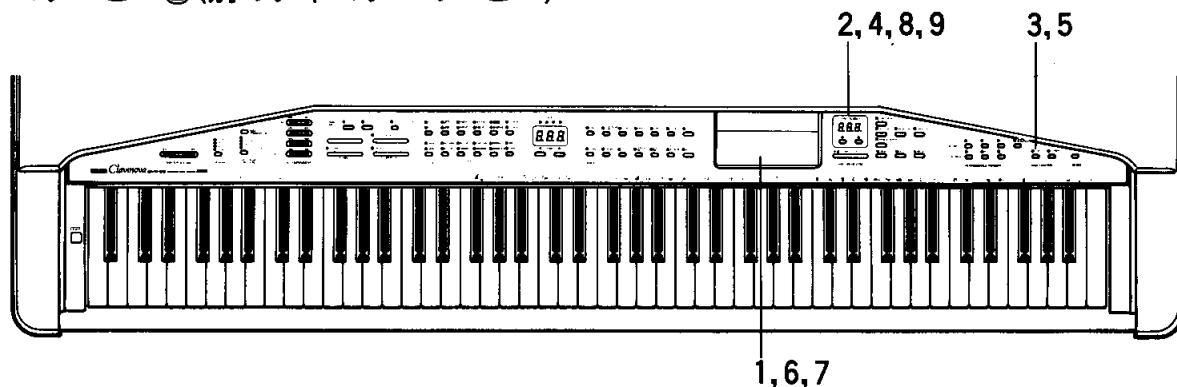


【注意】

- ・操作2で曲が入っていない曲番号を指定したりc 0表示のままコピーボタンを押した場合は、コピーされません。

書き替えたくない場合は▲ボタンを押してください。


●ディスクコピー②(別のディスクへのコピー)



1 コピー元の曲が入っているフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

2 ソングナンバーボタンでコピー元の曲番号を指定します。

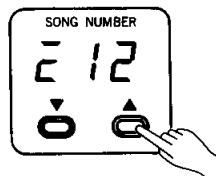
3 コピーボタンを押します。

 コピーボタンを押すと、ランプが点滅を始め、ソングナンバー表示器は、c 0の表示になります。

4 ソングナンバーボタンで、コピー先の曲番号を指定します。

別ディスクへのコピーが可能のように、c1~c60の範囲の曲番号を指定してください。(たとえば、別ディスクに曲番号12としてコピーする場合はc12にします。)

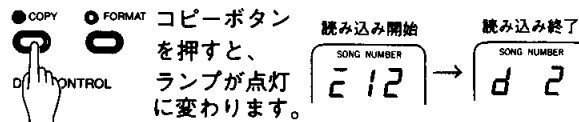
曲番号を指定する時は、ソングナンバー表示器をご覧ください。



★この時点であれば、スタート/ストップボタンを押すことによりコピーを解除できます。

5 もう一度コピーボタンを押します。

すると、コピー元のデータが、一時的に本体のメモリーに読み込まれます。しばらく時間がかかりますが、読み込みが終るまでお待ちください。



6 読み込みが終ったら、コピー元のフロッピーディスクを取り出します。

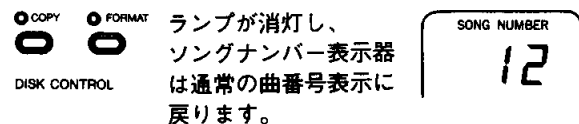
7 コピー先のフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

正しいディスクが挿入されると、ソングナンバー表示器にY/nの確認表示が出ます。

8 ▼ボタンを押します。

★コピーを実行したくない場合は▲ボタンを押してください。

9 コピーが終了すると……



【補足】

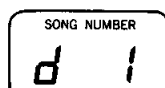
・コピー元のソングの演奏時間が長かったり、1曲の中でたくさんの機能を使っている場合は、一度にコピーできないことがあります。その場合操作8の後、d1(コピー元のディスク挿入要求)の表示になります。この時は、次の操作をしてください。

d1が表示されたら……コピー元のディスクをディスク挿入口に差し込んで、d2または曲番号表示になるまで待つ。

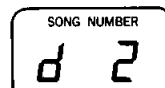
d2が表示されたら……コピー先のディスクをディスク挿入口に差し込んで、d1または曲番号表示になるまで待つ。

曲番号表示に戻ったら…コピーは終了です。

読み込み開始



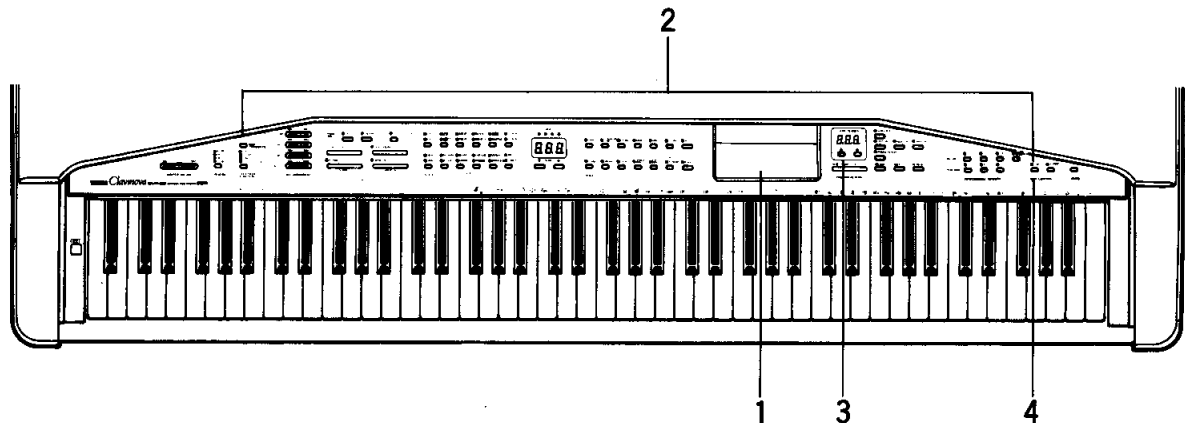
読み込み終了



この後、再び操作6~8をしてください。残りの部分がコピー先のフロッピーディスクにコピーされます。

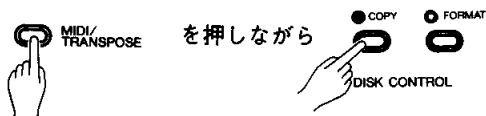
●内容を消去する(デリート)

曲番号単位で、その内容を消去することができます。この操作を実行すると、録音内容を復活させることはできませんので、誤って消去してしまわないように注意してください。



1 消去する曲が入ったフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

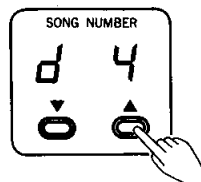
2 MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、コピーボタンを押します。



コピーボタンのランプが点滅を始め、ソングナンバー表示器はd0の表示になります。



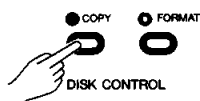
3 ソングナンバーボタンで消去したい曲番号を選びます。



★この時点であれば、スタート/ストップボタンを押すことによりデリートを解除できます。

4 コピーボタンを押します。

しばらく時間がかかります。



コピーボタンを押すと、ランプが点灯に変わります。

消去が終了するとランプが消灯し、ソングナンバー表示器は曲番号表示に戻ります。



【アドバイス!】

- ・フロッピーディスクに録音されている内容を全て消してしまいたい時は、フォーマットの機能を使うと素早く行えます。38ページの“フォーマット(初期化)する”を参照してください。

5. その他の機能

●他の楽器と音程を合わせる（ピッチコントロール）

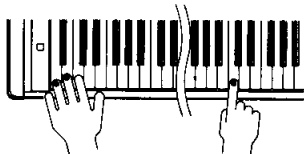
合奏の時などに、他の楽器と正確に音程を合わせることができます。つまり微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って他の楽器と音の高さを合わせることができます。

音程の合わせ方



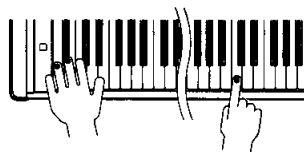
音程を上げる時

- 1 A₋₁とB₋₁の鍵盤を同時に押しながら、
 - 2 C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。
- 音を聴きながらこきざみに音程を上げて、合わせてください。

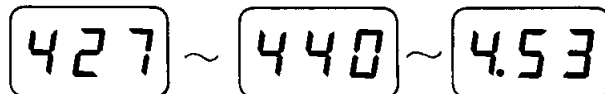


音程を下げる時

- 1 A₋₁とA[#]₋₁の鍵盤を同時に押しながら、
 - 2 C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。
- 音を聴きながらこきざみに音程を下げて、合わせてください。



★±約50セントの範囲、約1.2セントステップで設定できます。（参考：100セント＝半音）なお、設定値はテンポ表示器に周波数で表示されます。



A₃ = 427Hz

A₃ = 440Hz

A₃ = 453Hz

（約-50セント）

（標準）

（約+50セント）

操作後約3秒経過すると、この表示からテンポ表示に切り替わります。

【こんなこともできる！】

- ・テンポ表示器に表示されるのは、小数点以下が切り捨てられた周波数値です。テンポ表示器内の3つの点でおよその小数点以下の値を確認できます。
 - 0.00～0.24：。。。 （消灯、消灯、消灯）
 - 0.25～0.49：。。。 （点灯、消灯、消灯）
 - 0.50～0.74：。。。 （消灯、点灯、消灯）
 - 0.75～0.99：。。。 （消灯、消灯、点灯）

【補足】

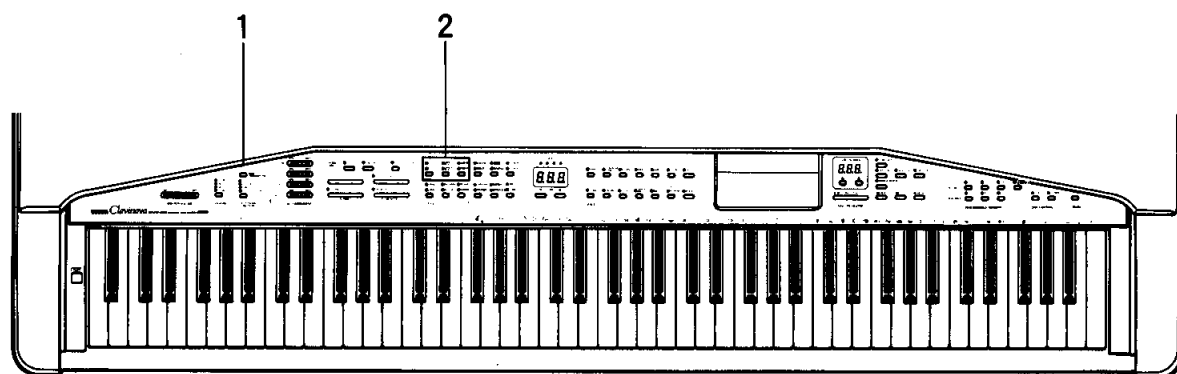
- ・元の高さ（A₃＝440Hz）に戻す時はパワースイッチをオンしなおすか、またはA₋₁、A[#]₋₁、B₋₁の3鍵盤を同時に押しながら、C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押してください。
- ・パワースイッチをオンにした時は、いつも元の高さに戻っています。（A₃＝440Hz）

【注意！】

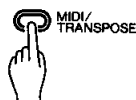
- ・この機能は、ピアノABC機能（21ページ参照）やスプリット機能（15ページ参照）と同時に使うことはできません。

●タッチの感度を変える

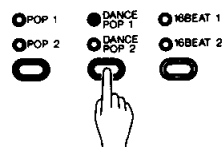
CVP-55では、ピアノとほぼ同じように押鍵の強弱で、ピアノシモからフォルテシモまで音の大小(演奏の抑揚)を表現できます。ここでは、この押鍵の強弱に対する感度を変更できます。



1 MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



2 該当するスタイルボタンを押します。



- ・ポップ1:
強いタッチでも弱めの音になります。(ハード)
- ・ダンスポップ1:
通常のピアノタッチです。(ミディアム)
- ・16ビート1:
弱いタッチでも強めの音になります。(ソフト)

【補足】

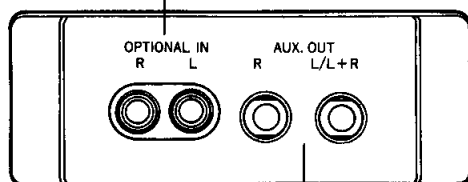
- ・パワースイッチをオンにした時は、いつも元の設定(ミディアム)に戻っています。

●他の機器と接続する

各部の付属端子を使って、各機器と接続できます。

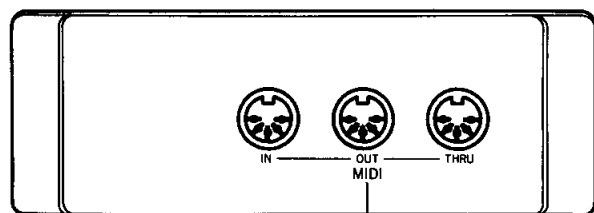
オプション入力端子(ピンジャック)

外部の製品の音をCVP-55でいっしょに鳴らすことができます。



AUX出力端子(フォーンジャック)

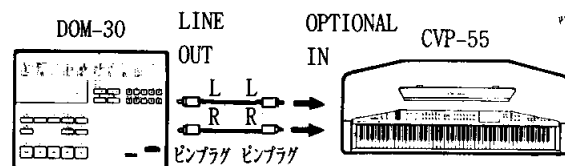
ステレオなどに接続して、より大きな音を出したり、演奏を録音することができます。ステレオに接続した時はCVP-55のボリュームは8分目にして、ステレオのボリュームで音量を調節してください。



MIDI端子(52ページ参照)

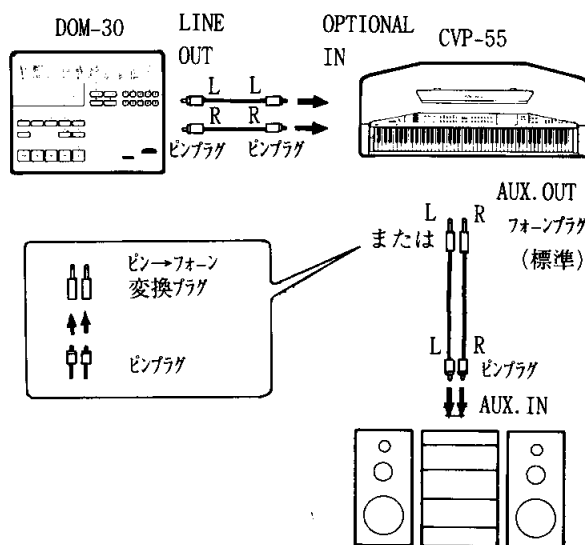
接続例1

ヤマハ ディスクオーケストラ・モジュール DOM-30の音を、CVP-55のスピーカーでいっしょに鳴らす。サウンドをさらに厚みのあるものにできます。



接続例2

オプション入力端子から入力したDOM-30の音と、CVP-55の音をまとめてステレオで鳴らす。



*CVP-55のAUX. OUTから、CVP-55とDOM-30の音が両方出ます。

[補足]

・ヘッドフォン端子の説明については、1ページをご覧ください。

6. MIDI機能でステップアップ

●MIDIとは？

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス (Musical Instrument Digital Interface) の頭文字をとったもので、“ミディ”と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI製品を接続して、それらの間で、演奏にまつわる様々なコントロールをさせようという目的で考え出された世界統一規格です。つまりMIDI機能は、他のMIDI規格の製品と接続して初めて使い道があるわけです。

(MIDI製品には必ずMIDI端子があります。)

●CVP-55のMIDI端子

CVP-55には、次のように3種類のMIDI端子があります。(どのMIDI製品を見ても、実はこの3種類以外にはMIDI端子はありません。)



MIDI OUT (ミディアウト)

CVP-55での演奏内容等が出力されます。

MIDI IN (ミディイン)

他のMIDI製品からの演奏内容等を入力できます。

MIDI THRU (ミディスルー)

CVP-55のMIDI IN端子から入力した演奏内容等が、そのまま出力されます。(つまり、さらに別の製品にも同じ内容を送ることが可能)

★MIDI接続には、別売のMIDIケーブルが必要です。

MIDIケーブル (MIDI-15: 15m) ¥3,000

(MIDI-03: 3m) ¥1,100



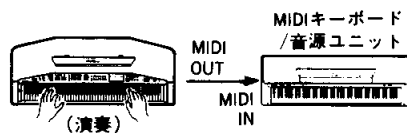
●MIDIでできること

「MIDIでどんなことができるか?」、それは接続した機器との相性で決まります。簡単にいえば、両製品が共通して持っているMIDI機能に関して、やりとりできる可能性があります。

MIDI製品と一口にいても実に様々なものがありますので、ここでは代表的なものを選んで“できること”を紹介します。接続する製品の取扱説明書も合わせてご覧ください。

MIDI OUT端子を使ってできること

◆MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合



★CVP-55で演奏すると、接続した製品もそれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。

★CVP-55で音色を切り替えると、接続した製品の音色も同時に切り替わります。

★この他に下記のように情報を出力する機能があります。相手側が情報を受けてどう対応するかは、相手側のMIDI機能によって決まります。

・ペダルを操作した時……ペダルの機能に対応した情報を出力

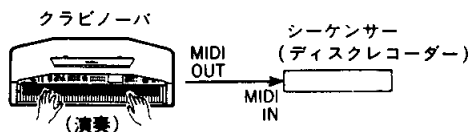
・パネルデータの送信機能を使った時、またはパネルデータ・バルクダンプリクエストを受信した時……パネル上の設定状態等を出力

※MIDIとは直接は関係ありませんが、相手側の音をCVP-55のオプション入力端子 (OPTIONAL IN) から入力して、CVP-55のスピーカーでいっしょに鳴らすこともできます。

※CVP-55もMIDIキーボードです。したがって相手側のMIDIキーボードとして、もう1台のクラビノーバを用いることも考えられます。

※51ページで紹介したディスクオーケストラ・モジュールDOM-30も音源ユニットに含まれます。音源ユニットは簡単にいうと、キーボードから鍵盤を除いたもの (=音源まわりを残したもの) だと思ってください。

◆MIDIシーケンサーを接続した場合



★CVP-55で演奏する内容を、MIDIシーケンサー (ディスクレコーダー) に記録できます。

＊ここで一つお断りしておきますが、パフォーマンスメモリーで演奏内容を保存させることを他の項では録音と言っていますが、厳密に言えばこれも記録です。(他ではこの違いがあまり問題とならないのと同時に、一般的には録音という言葉の方が受け入れられやすいため、あえてこのようにしています。)

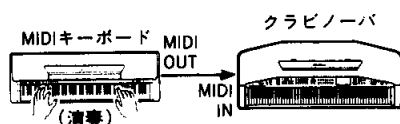
さらに詳しく言えば、演奏内容を保存させることができる機械にテープレコーダーがありますが、この場合は音そのものを保存させるわけですから録音です。

それに対し、パフォーマンスメモリーやシーケンサーで保存させるのは、音そのものではなく、後で音を出すことができるように音を出すためのデータを保存するため、こちらは記録です。事実、シーケンサーを再生する時には音を出す製品(MIDIキーボードや音源ユニットといわれるもの)を組み合わせなければ音にはなりません。これからMIDIシーケンサーを使おうと思っている方は、このあたりの概念をまずはしっかりと理解してください。

★音色の切替情報や様々なエクスクルーシブ情報を記録できます。(前項の”MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合”で紹介した情報全て、およびその他)

MIDI IN端子を使ってできること

◆MIDIキーボードに接続した場合



★外部のMIDIキーボードで演奏すると、CVP-55もCVP-55自身の音色で同時に鳴り、音に厚みがでます。

★外部のMIDIキーボードで音色を切り替えると、CVP-55の音色も同時に切り替わります。

★この他に下記のような情報を入力してCVP-55をコントロール可能です。

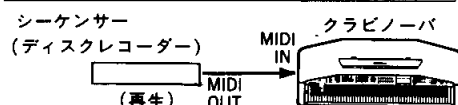
- ・ペダル効果(ダンパー、ソフト等)をコントロールする情報
- ・パネルデータバルクダンプのリクエスト情報
- ・音量等のパネル情報

※MIDIとは直接関係ありませんが、相手側の音をCVP-55のオプション入力端子(OPTIONAL IN)か

ら入力して、CVP-55のスピーカーでいっしょに鳴らすこともできます。

※CVP-55もMIDIキーボードです。したがって外部のMIDIキーボードに、もう1台のクラビノーバを用いることも考えられます。

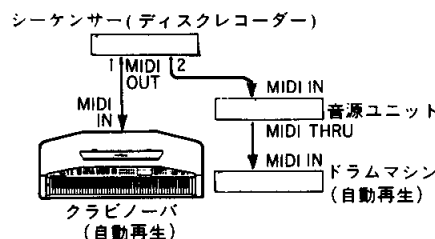
◆MIDIシーケンサーに接続した場合



★MIDIシーケンサー(ディスクレコーダー)に記録済みの演奏内容を、CVP-55の音色で再生できます。

MIDI THRU端子の使い方

MIDI THRU端子はシステム接続する時に便利です。MIDI THRU端子を使った接続として、たとえば次のようなシステムが考えられます。



★これは、MIDIシーケンサー(ディスクレコーダー)の再生クロックに合わせてCVP-55も再生させ、シーケンサー内の演奏データは音源ユニットで鳴らすという自動演奏システムです。さらにドラムマシンにより、リズムを加えています。

※この図では、アンプやスピーカーを省略してあります。

●MIDI関係の設定・機能

MIDIの機能を使う場合にもやはり設定が必要です。
(設定しなくてもたまたま動くこともありますが……)

◆MIDIチャンネルの設定

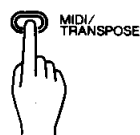
MIDIの世界にも、テレビと同じようにチャンネルがあります。MIDIには1から16チャンネルまであり(テレビの場合は1から62ですね)、ほとんどのMIDI情報*に”これは〇〇チャンネルに対するものだよ”という信号が含まれています。そもそもなぜチャンネルが必要かというと、たとえばシーケンサーを再生した場合、シーケンサーのMIDI OUT端子からはいくつものチャンネルの情報が次々に出力されます。そしてそれらは1本のMIDIケーブルの中をいっしょに流れます。幸いにして各情報にはMIDIチャンネルが付けられていますので、受信側の製品でチャンネルを指定してやれば、それらの中から必要なチャンネルの情報だけを選んで受け取ることができるわけです。

そして、最も一般的な接続であるMIDIキーボードとMIDIキーボードの接続の場合にも、送信側の送信チャンネルと受信側の受信チャンネルを一致させなければ、受信側で情報を受け取ることができませんので、受信側で当然音は鳴りません。

*チャンネルの信号が含まれていると都合の悪い情報には、チャンネル信号は逆に含まれていません。

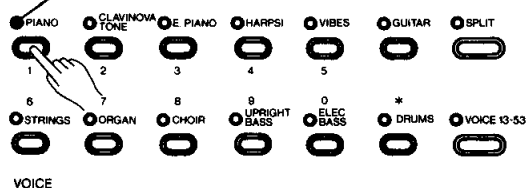
送信チャンネルの設定方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



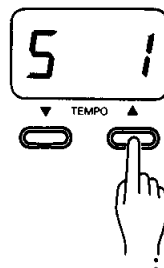
②ピアノボタンを押します。そして、ピアノボタンだけを離します。

ランプが点灯する。

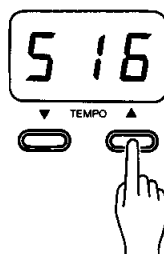


③MIDI/トランスポーズボタンを押した状態で、テンポボタンを押して、テンポ表示器に希望するチャンネルNo.を表示させます。

・送信チャンネル1にする場合……



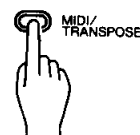
・送信チャンネル16にする場合……



★パワースイッチをオンにした時は、必ず送信チャンネル1となっています。

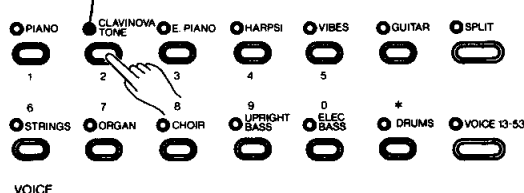
受信チャンネルの設定方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



②グラビノーバトーンボタンを押します。そして、グラビノーバトーンボタンだけを離します。

ランプが点灯する。

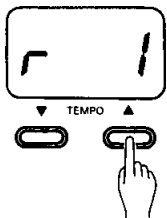


③MIDI/トランスポートボタンを押した状態で、テンポボタンを押して、テンポ表示器に希望するチャンネルNo.を表示させます。

・オムニオン+受信チャンネル1にする場合……



・オムニオフ+受信チャンネル1にする場合……



・オムニオフ+受信チャンネル16にする場合……



★パワースイッチをオンにした時は、必ずオムニオン+受信チャンネル1となっています。

※オムニオンは、チャンネル設定に関係なく、どのチャンネルメッセージ(鍵盤、ペダル、音色スイッチ等)でも受信する状態です。

◆ローカルコントロールオン/オフの切替

ローカルコントロールオフという状態にすると、CVP-55で演奏したにもかかわらずCVP-55自身では鳴らなくなります。ただしMIDI OUT端子からは、オン/オフにかかわらず演奏情報が出力されます。つまりローカルコントロールオフは、あえて外部の製品側だけで鳴らしたい場合に、CVP-55で音が出ないようにするためのものです。

オン/オフの切替方法

①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、

②エレクトリックピアノボタンを押します。

- ・ローカルコントロールオフにする場合……
エレクトリックピアノボタンのランプを点灯させる。
- ・ローカルコントロールオンに戻す場合……
エレクトリックピアノボタンのランプを消灯させる。

★CVP-55を受信側にした場合は、この設定は一切関係ありません。

★パワースイッチをオンにした時は、必ずローカルコントロールオンとなっています。

◆プログラムチェンジオン/オフの切替

プログラムチェンジオフという状態にすると、CVP-55で音色を切り替えても、MIDI OUT端子へ音色の切替情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子から音色切替情報を受けてもCVP-55の音色は切り替わらなくなります。

つまり、CVP-55だけで単独に音色を切り替えたい場合(他の機器と音色切替を連動させたくない場合)には、プログラムチェンジオフにしてください。

オン/オフの切替方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

②ハーブシコードボタンを押します。

- ・プログラムチェンジオフにする場合………
ハーブシコードボタンのランプを点灯させる。
- ・プログラムチェンジオンに戻す場合………
ハーブシコードボタンのランプを消灯させる。

★パワースイッチをオンにした時は、必ずプログラムチェンジオンとなっています。

◆コントロールチェンジオン/オフの切替

コントロールチェンジオフという状態にすると、CVP-55でペダルなどを操作しても、MIDI OUT端子へそれらの情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子からそれらの情報を受けても、CVP-55はそれに応じなくなります。

つまり、CVP-55だけで単独にペダルを操作したい場合には、コントロールチェンジオフにしてください。

オン/オフの切替方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

②バイブボタンを押します。

- ・コントロールチェンジオフにする場合………
バイブボタンのランプを点灯させる。
- ・コントロールチェンジオンに戻す場合………
バイブボタンのランプを消灯させる。

★パワースイッチをオンにした時は、必ずコントロールチェンジオンとなっています。

◆マルチティンバーモードオン/オフの切替

マルチティンバーモードオンという状態にすると、チャンネル1～10および15のチャンネルの情報を、同時に受信できるようになります。(チャンネル15はリズム専用です。)

たとえばディスクレコーダーEMQ-1(MIDIシーケンサー)に記録されている複数のチャンネルの演奏情報をCVP-55に受信させ、それぞれの音色で同時に鳴らしたい時に、マルチティンバーモードオンにします。マルチティンバーモードオンにすることにより、次の表のように情報を受信できます。

ファンクション	CH 1	CH 2	CH 3	CH 4	CH 5	CH 6	CH 7	CH 8	CH 9	CH 10	CH 15
プログラムチェンジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ボリューム、 エクスプレッション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サステイン、 モジュレーション、 パンポット、 ダンパーペダル、 ソステヌートペダル、 ソフトペダル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
オールノート オフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ローカル コントロール オン/オフ	設定受信チャンネルで受信可能										

- ・○は受信可能、×は受信不可能を意味します。
- ・プログラムチェンジが送られてくれば、対応する音色に切り替わります。
- ・チャンネル15の情報には本機のリズムが対応(チャンネル15はリズム専用)しますが、プログラムチェンジの0～23、98、99でリズム変更が可能です。
リズムを鳴らせずに4拍子を保持させる場合はp=99、3拍子を保持させる場合はp=98に設定してください。なお、p=98および99はほかのキーボード等を使ってメモリーします。

オン/オフの切替方法

①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、

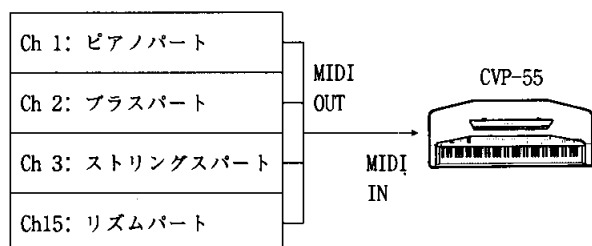
②ギターボタンを押します。

- ・マルチティンバーモードオンにする場合……
ギターボタンのランプを点灯させる。
- ・マルチティンバーモードオフに戻す場合……
ギターボタンのランプを消灯させる。

★CVP-55を送信側にした場合は、この設定は一切関係ありません。

★マルチティンバーモードの代表的な使用例は次のとおりです。

シーケンサー(ディスクレコーダー)
(再生)



これらのパートの音をCVP-55のそれぞれの音色で鳴らす。

つまり(別々のチャンネルで)シーケンサーに記録された様々なパートの演奏を、CVP-55の1台で再生できます。

★パワースイッチをオンにした時は、必ずマルチティンバーモードオフとなっています。

★同時に発音できるのは1~10、15チャンネル合計で32音までです。

一般的なシーケンサーへの記録手順の例

シーケンサーへの送信時(記録時)には、MIDIチャンネルは各パート共に1~16チャンネルの範囲で設定できますが、受信時には1~10および15チャンネルの情報だけを受け付け可能ですので、ご注意ください。(チャンネル15はリズムおよびドラムスの音源が対応します。)

ここでは、マルチティンバーモードの代表的な使用例として掲げた左図の再生ができるように、録音手順を紹介します。

①CVP-55のMIDI OUT端子とシーケンサーのMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。

②シーケンサーにリズムを記録します。(リズムでなく、ドラムスの音色を指定して自分でリズムを演奏してもかまいません。)

②-1まず、MIDI送信チャンネルを15にします。

②-2シーケンサーを記録スタートさせます。

②-3リズムを選んだり、テンポや音量を調整します。(記録はスタートされていますので、素早く行います。)

②-4実際にリズムをスタートさせて記録します。

③MIDI送信チャンネルを1にした上で、シーケンサーを記録スタートさせてから音色をピアノにしてピアノパートを記録します。記録済みのリズムを聴きながら演奏してください。

④同様に、送信チャンネル2でシーケンサーを記録スタートさせてからプラスパートを記録します。

⑤同様に、送信チャンネル3でシーケンサーを記録スタートさせてからストリングスパートを記録します。

これで完了です。再生時にはCVP-55をマルチティンバーモードオンにして、シーケンサーに記録した全てのパートを再生させてください。

◆スプリット送信モードオン/オフの切替

ピアノABCやスプリットの状態の時に、スプリット送信モードオンという状態にすると、低音部と高音部の演奏(ノートオン/オフ)情報が、異なったチャンネルNo. で送信されるようになります。

「CVP-55上で低音部と高音部を異なった音色で鳴らすばかりでなく、外部の製品側でもそうしたい。」という場合、スプリット送信モードオンにしてください。

設定方法

①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、

②ストリングスボタンを押します。

- ・スプリット送信モードオンにする場合……
ストリングスボタンのランプを点灯させる。
- ・スプリット送信モードオフにする場合……
ストリングスボタンのランプを消灯させる。

★低音部の演奏情報はMIDIチャンネル2で送信されますので、外部の製品のMIDI受信チャンネルを2に合わせてください。

また高音部の演奏情報は”MIDIチャンネルの設定”のところで指定したMIDIチャンネルで送信されます。

★低音部と高音部の演奏情報を、MIDIシーケンサーに別々のチャンネルで記録することも可能です。

★CVP-55を受信側にした場合は、この機能は一切関係ありません。

★パワースイッチをオンにした時は、必ずスプリット送信モードオフとなっています。

◆外部クロック/内部クロックの切替

本機のリズムを制御するクロックを選択できます。外部クロックにすると、CVP-55のリズムの速さが外部のシーケンサーやドラムマシンによってコントロールされるようになり、内部クロックにすると、CVP-55のリズムの速さはCVP-55自身によってコントロールされるようになります。

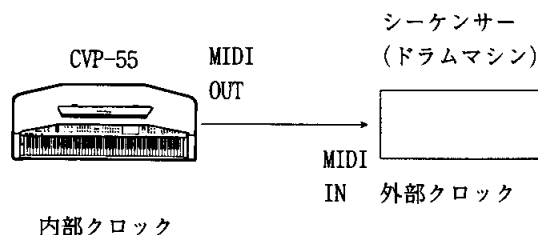
設定方法

①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、

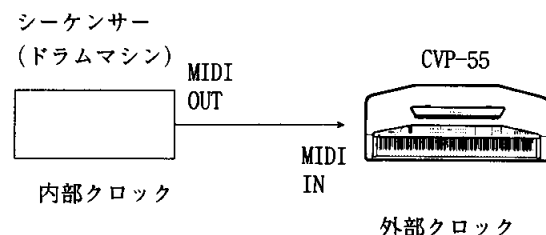
②オルガンボタンを押します。

- ・外部クロックにする場合……
オルガンボタンのランプを点灯させる。
- ・内部クロックにする場合……
オルガンボタンのランプを消灯させる。

★外部のシーケンサーやドラムマシンの再生スピードを、CVP-55のリズムの速さに合わせる場合は、次のようにセットしてください。



★CVP-55のリズムの速さを、外部のシーケンサーやドラムマシンの再生スピードに合わせる場合は、次のようにセットしてください。



★パワースイッチをオンにした時は、必ず内部クロックとなっています。

◆パネルデータの送信

パネル上の設定状態をシーケンサーに記録したり、別のCVP-55のパネル上の設定をCVP-55に合わせるすることができます。

シーケンサーに演奏情報を記録する前にパネル情報を記録しておけば、後でシーケンサーを再生した時、自動的にCVP-55の状態が記録した時の状態に切り替わります。

送信方法

①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、

②クワイアボタンを押します。すると、すぐに送信が開始されます。

MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1990.1.24

Version: 1.0

ファンクション...	送	信	備考
ベーシック電源ON時 チャンネル設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル	1チャンネル 1~16チャンネル	
モード電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 オムニ・オン、オムニ・オフ ×	
ノート ナンバー音域	21~108 *****	21~108 21~108	
ベロシティノート・オン ノート・オフ	○ 9nH、v=1~127 × 9nH、v=0	○ v=1~127 ×	
アフターキー別 タッチチャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	○	○	
コントロール チェンジ	01 ○ 07 ○ 10 × 11 ○ 64 ○ 66 ○ 67 ○ 91 ○ 121 ×	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	モジュレーション ボリューム パンポット エクスプレッション ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル リバーブデプス リセットオール コントローラー ※1
プログラム チェンジ設定可能範囲	○ 0~52 *****	○ 0~96 0~96	
エクスクルーシブ	○	○	
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイムクロック コマンド	○ ○	○ ○	
その他 ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○ (123~125) ※1 ○ ×	
備考	※1 121および123のみオムニ・オフ時またはマルチティンバーモード・オン時に受信可能		

モード1: オムニ・オン、ポリ
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ
モード4: オムニ・オフ、モノ

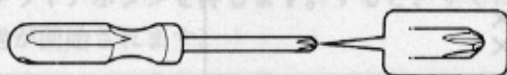
○: あり
×: なし

7. 資料

●CVP-55の組み立て方

- ・部品をまちがえたり、取り付けの向きを間違えないように注意しながら、手順どおり組み立ててください。
- ・解体する時は、組み立てと逆の手順で行ってください。
- ・組み立ては2人以上で行ってください。1人で無理に組み立てようとすると、傷をつけたり、製品に悪い影響を与えることがあります。また、毛布などの柔らかい布の上で組み立てられることをお勧めします。

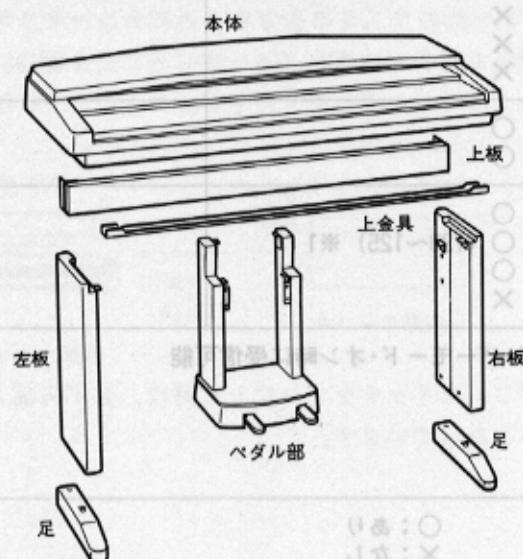
1. + (プラス) のドライバーを用意します。



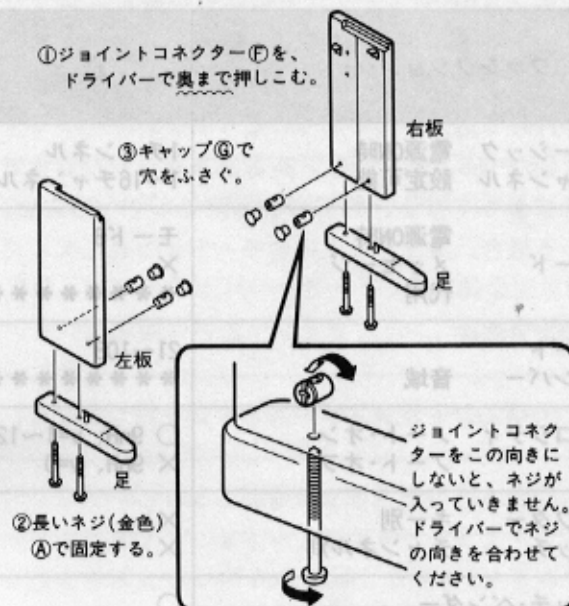
2. 箱を開けて部品を取り出します。そして部品が全てそろっているか確かめてください。

ネジセット VL17570

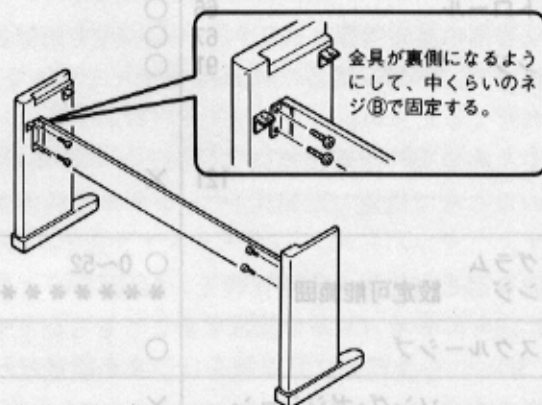
①長いネジ(金色)	②中くらいのネジ	③短いネジ
4本	6本	6本
④小さいネジ(短)	⑤小さいネジ(長)	⑥ジョイントコネクター
2本	4本	4ヶ
⑦キャップ		
4ヶ		



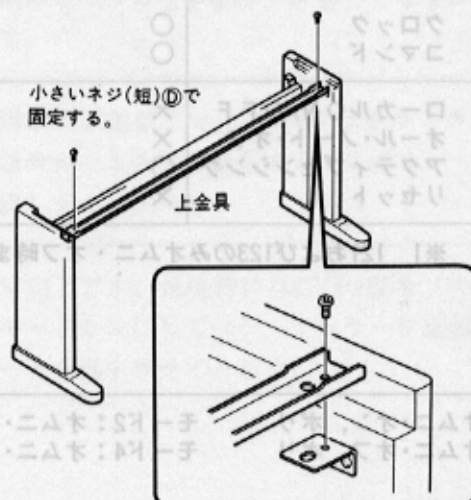
3. 右板と足、左板と足を固定します。



4. 上板を固定します。

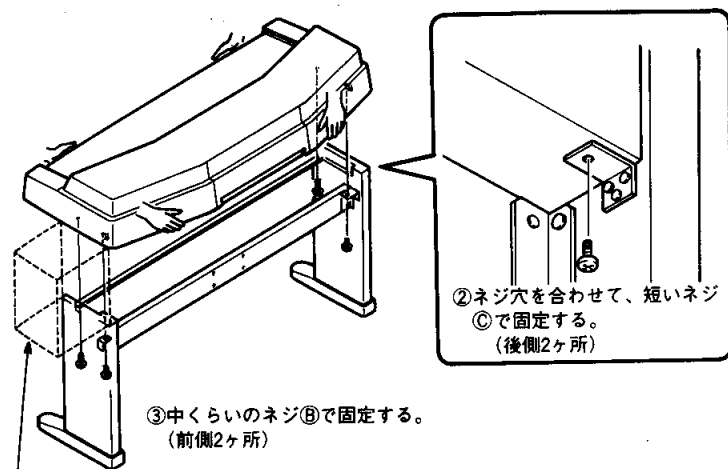


5. 上金具を固定します。



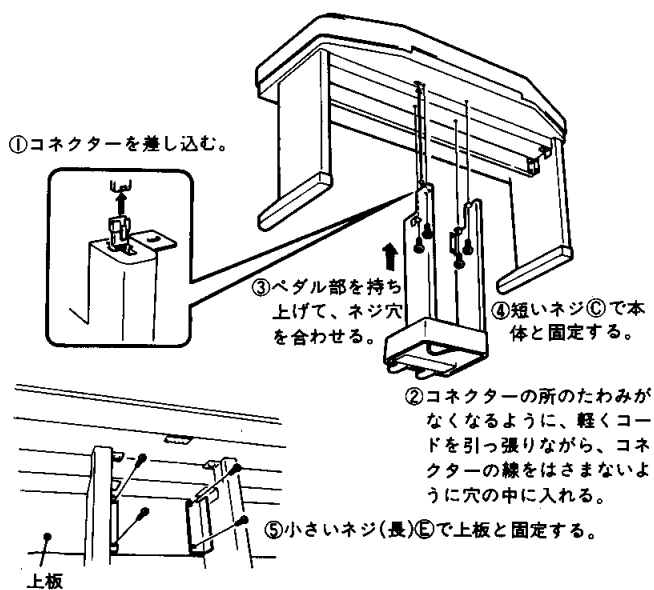
6. 本体を固定します。

①手をはさまないように充分注意しながら、本体を載せる。



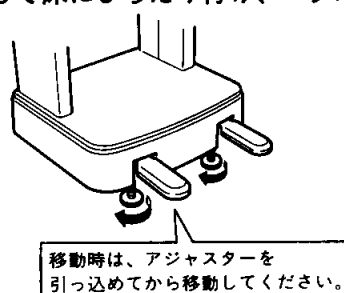
この点線の範囲に手がいかないようにしてください。
はさまれやすく危険です。(反対側も同様です。)

7. ペダル部を取り付けます。



8. アジャスターを回して床にぴったり付け、ペダル部を安定させます。

これで組み立て完了



※引っ越しなどでクラビノーバを移動した場合は、各ネジを締め直してください。

●オプション (別売品) のご紹介

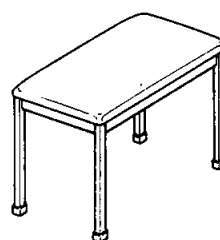
ヘッドフォン・HPE-6

¥5,500



イス・BC-8

¥8,000



※表示の価格には、消費税は含まれていません。

●おかしいな？と思ったら

おかしいな？と思ったら、この表を見てください。

現 象	原 因	解 決 法
パワースイッチをオンまたはオフにした時、“カチ”と音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
スピーカーから出る音が小さい！ 全く音が出ない。	音量が下がっている。	マスターボリュームを上げてください。
	ヘッドフォン端子にプラグを差しているため。	プラグを抜いてください。
	ローカルコントロールオフになっている。	MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、エレクトリックピアノボタンを押してください。
リズムがスタートしない/ リズムの音が出ない。	外部クロックの状態になっている。	MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、オルガンボタンを押してください。
	リズムボリュームが下がっている。	リズムボリュームを上げてください。
	スタートさせていない。	スタートボタン等を押してください。
	シンクロスタート待ちの状態になっている。	低音部の鍵盤を押してください。
低音部の音が出ない。	コードボリュームまたはベースボリュームが下がっている。	コードボリュームまたはベースボリュームを上げてください。
	高音部側を弾いている。	スプリットポジションよりも低音部側で弾いてください。
自動伴奏されない。	ピアノABCの状態になっていない。	ピアノABCボタンを押してシングルフィンガーまたはフィンガードの状態にしてください。
	フィンガードの状態、シングルフィンガーの押え方をしている。	付属の“フィンガードコード一覧表”等をご覧ください。
途中から音階がおかしくなる。	低音部の鍵盤を押している。	シングルフィンガーやフィンガードの状態になっているためですから、そのようになります。
思ったとおりの和音が出ない。	指を離さないうちに、次のコードにしようとしている。	鍵盤から一旦指を離したうえで、次の鍵盤を押すようにしてください。
	正確に押さえていない。	付属の“シングルフィンガーコード一覧表”または“フィンガードコード一覧表”等をご覧ください。
左ペダルをソロスタイルプレイ機能にできない。	ソロスタイル機能をオンにしていない。	ソロスタイルプレイ機能をオンにした時のみ、選択および機能させることができます。
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない	同時に鳴らせる音数には制限があります。	制限数以上の音は、前の音を消して後の音を鳴らすしくみとなっています。
選んでいない音色で鳴る。	ピアノABC機能またはスプリット演奏機能をオンしている。	低音部の音色は高音部の音色と異なります。
左側のペダルを踏んでも、ソフト効果がかからない。	別の機能になっている。	レフトペダルファンクションボタンを押して、ソフトのランプを点灯させてください。
60ソングまで録音できない。	1曲の演奏時間が長かったり、たくさんの機能を使った場合は、60ソング以内でも記憶容量(約709kバイト)を超えてしまい、録音できなくなる。	新しいディスクに録音してください。
ディスクオーケストラコレクションを再生している時、オーケストラ、ライト、レフトのパートが聞こえない。	各パートがオフになっている。(ボタンのランプが消えている。)	オーケストラオン、ライトオン、またはレフトオンのボタンを押してランプを点灯させればオンになります。

●仕様

●鍵盤：88鍵(A₁～C₇)イニシャルタッチ付

●音色(53種類)：ピアノ、クラビノーバトーン、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、バイブ、ギター、ストリングス、オルガン、クワイア、アップライトベース、エレクトリックベース、ドラムス、ブラス、ポップブラス、トランペット、ミュートトランペット、ホルン、サックス、サックスソフト、クラリネット、オーボエ、フルート、アコーディオン、ハーモニカ、ストリングスソフト、バイオリン、バイオリンハード、フルオルガン、ジャズオルガン、シンセブラス、シンセウッド、シンセストリングス、シンセクワイア、ピアノブライト、ピアノソフト、エレクトリックピアノDX、シンセクリスタル、チェレスタ、マリンバ、フォークギター、ジャズギター1、ジャズギター2、ロックギター1、ロックギター2、ミュートギター、バンジョー、ピチカート、ハーブ、アップライトベースソフト、エレクトリックベースソフト、エレクトリックベースヘビー、シンセベース、ティンパニ

ドラムス(打楽器音41種)；バスドラム(ノーマル、ライト)、スネアドラム(ヘヴィ、ライト、エコー)、リムショット、スネアドラム+リム(ヘヴィ、ライト)、ブラッシュ(ロール、ショット)、ハイハット(ペダル、クローズヘヴィ、クローズノーマル、オープン)、タム1～4(ノーマル)、ライドシンバル(ノーマル、カップ)、クラッシュシンバル(ノーマル、ライト)、コンガ(ロー、ハイ)、カバサ、ボンゴ(ロー、ハイ)、クラベス、カスタネット、カウベル、ティンバル(ロー、ハイ)、クイーカ(ロー、ハイ)、ハンドクラップス、アゴゴ(ロー、ハイ)、タンバリン、トライアングル(クローズ、オープン)、メトロノーム、シンバルオフ

●効果：リバーブ、トランスポーザー、ピッチコントロール、ソフト、ソステヌート、ダンパー

●リズム(24種類)：ポップ1、2、ダンスポップ1、2、16ビート1～3、ロックンロール、スローロック、シャッフル、カントリー1、2、スウィング1、2、ビッグバンド、ブギー、ボサノバ、サンバ、チャチャ、ルンバ、マーチ、マーチ6/8、ワルツ、ジャズワルツ、メトロノーム4/4、3/4

コントロール；スタート/ストップ、イントロ/エンディング、ノーマル、バリエーション、テンポコントロール、拍子ランプ、テンポ表示器、リズムボリューム

●ピアノABC：シングルフィンガー、フィンガード、
コントロール；コード1、2ボリューム、ベースボリューム

●パフォーマンスメモリー：10トラック録音/再生

記録容量；約709kバイト、最大60曲

記録媒体；3.5インチ 2DD マイクロフロッピーディスク

コントロール；レコード(1、2、3-10)、プレイバック(1、2、3-10)、コードシーケンス

●レフトペダルファンクション：ソフト/ソステヌート/スタート・ストップ/ソロスタイルプレイ

●ディスクオーケストラ：コントロール；ソングセレクト、フリーズリピート、オーケストラオン、レフトオン、ライトオン、スタート/ストップ、REW、FF、ポーズ、ソングナンバー表示器、ソングナンバーアップ/ダウン

●ディスクコントロール：コントロール；コピー、フォーマット

●その他コントロール：パワースイッチ、マスターボリューム、MIDI/トランスポーズ、ソロスタイルプレイ、スプリット、デモ

●付属端子：ヘッドフォン端子、オプション入力端子(L、R)、AUX出力端子(L/L+R、R)、MIDI端子(IN、OUT、THRU)

●メインアンプ：80W(40W×2)

●スピーカー：13cm×2、5cm×2

●定格電源：AC100V 50/60Hz

●消費電力：53W

●外装：仕上げ；ブラックローズウッド調仕上げ

間口；141.6cm、奥行；58.2cm、

高さ；81.7cm、重量；62.0kg

●装備：スライド式キーカバー、折りたたみ式譜面立て



●付属品：3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスク×1

ディスクオーケストラコレクション×1

ディスクオーケストラコレクション用楽譜×1

●エラーメッセージ一覧表

パフォーマンスメモリー機能やディスクオーケストラで不適当な操作を行おうとした場合などに、ソングナンバー表示器にエラーメッセージが表示されます。この表示が出た時には、原因を確認した上で処置を施してください。

表 示	原 因	処 置
	1. ディスクの不良 2. ディスク作動時に大きな振動があった。	1. ディスクを交換してください。 2. ユーズランプが点灯している時には、振動を与えないようにしてください。
	1. ディスクが録音不可の状態になっている。 2. ディスクオーケストラコレクションをコピーしたディスクを他のディスクへコピーしようとした。	1. ディスクのツメを動かして録音できる状態にしてください。 2. 同一ディスク内でのコピーしかできません。

●発音数一覧表

ここでは、各モードにおける同時発音数を表にします。

リズム	ピアノ ABC	デュアル	スプリット	同時発音数
×	×	×	×	演奏音32音
○	×	×	×	リズム8音、演奏音24音
○	○	×	×	リズム8音、ピアノABC8音、高音部16音
×	×	○	×	演奏音16音
×	×	×	○	低音部+高音部合わせて32音
○	×	○	×	リズム8音、演奏音12音
○	×	×	○	リズム8音、低音部+高音部合わせて24音
○	○	○	×	リズム8音、ピアノABC8音、高音部8音

○：機能オン

×

※ 音色により発音数が上表より減ることがあります。

※ パフォーマンスメモリーをプレイするとパフォーマンスメモリーで使用した音数だけ演奏者が減ります。

●アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。
(日本国内のみ有効)
- 保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL. 011(513)5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 022(236)0249
新潟サービスセンター	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL. 025(243)4321
東京サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F TEL. 03(3255)2241
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044(434)3100
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ㈱宮竹工場内 TEL. 053(465)6711
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ㈱名古屋流通センター3F TEL. 052(652)2230
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ㈱千里丘センター内 TEL. 06(877)5262
神戸サービスセンター	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ㈱神戸店内7F TEL. 078(321)1195
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ㈱高松店内 TEL. 0878(22)3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39 TEL. 082(874)3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2134
[本 社]	
カスタマーサービス部	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ㈱宮竹工場内 TEL. 053(465)1158

北海道支店/〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター
TEL.011(512)6114

仙台支店/〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル
TEL.022(222)6149

東京支店/〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(3572)3140

関東支店/〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(3572)3120

名古屋支店/〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL.052(201)5140

大阪支店/〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
TEL.06(252)7541

広島支店/〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL.082(244)3748

九州支店/〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092(472)2152

鍵盤営業本部

電子楽器営業部

クラビノーバ営業課/〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(5568)2932

*住所および電話番号は変更になる場合があります。

